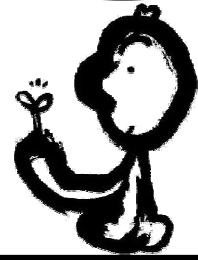


しみん基金・KOBÉ

NEWS

第 25 号

2011 年 7 月発行



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203(サンピア2F)

TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

いつまで我慢するのか



未曾有の複合災害である東日本大震災から4ヶ月が過ぎた。被災者の生活は徐々に避難所から仮設住宅へ移行しつつあり、仮の住まいとは言え真新しい仮設住宅への移行は、被災者の暮らし再建にとって、きっと希望を見出せる一歩にもなるはずだ。今回の仮設住宅の特徴は、岩手県・福島県に関しては木造仕様の仮設住宅が多いということである。木造の場合はより、木の温もり、やさしさによる安堵感をもたらすものだろうと期待もできる。

ところが、被災者の多くは“希望”ではなく、“不安”を抱えていることが被災者の“つぶやき”から見て取れる。避難所生活での“つぶやき”に耳を傾けて見よう。「最初の一週間は、土の上で寝て底冷えしたけど、今は大分暖かくなった」「最初の一日の間は食べ物もなくて、凍ったおにぎりを食べていた」(1ヶ月後 80 才男性)。実は食事に関しては、1ヶ月どころか、4ヶ月が過ぎてもまだおにぎり菓子パンのみという声も少なくない。その他、高い室温のこと、トイレは不衛生であること、プライバシーがないなどと過酷な避難所生活の実態が見えてくる。しかし、仮設住宅に移行するにあたって被災者からはこんな“つぶやき”が聞こえてくる。「仮設に入るよりここにいたら金がかからないからいいかなあって迷っている」(5月11日、70代男性)。「仮設住宅に当たったけど、内緒にしてるんだ」(4月26日、60代女性)。「何をしても気をつかって。はあー、仮設に入っても気を使うんだらうねえ」(4月27日、40代女性)。「仮設住宅は2年住めるみたい。2年過ぎても大丈夫って話だけどね…」(4月25日、70代女性)。

不安の一番の原因は、震災前まであったコミュニティの喪失であろう。孤独死の原因は、“孤立した生”があるからだ。この時の教訓が活かされていないのではないかと自省を込めながらも、腹立たしさも覚える。今回の東日本大震災は、1000年に一度といわれる最大40.4mを記録した大津波を伴ったので、沿岸部の町や村は壊滅状態になった。ポツリポツリと店が再建されても、日常的に人が行き交って成り立つ商いは再建が不可能である。人がいなければ、コミュニティが戻らなければ、“希望”が見えないどころか“絶望”の中で耐えるしかない。このことは阪神・淡路大震災で経験済みである。いくら我慢強い東北の人たちといえ、これ以上我慢を続けよというのだろうか、この国は…。

しみん基金KOBÉ 副理事長 村井雅清
(被災地 NGO 協働センター 代表)

主な目次

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| ◆ 平成 23 年度定時総会報告 ----- 2~3 | ◆ しみん基金 KOBÉ 活動報告 ----- 4 |
| ◆ 平成 23 年度はあ〜とふるファンド支援事業結果報告 3 | ◆ 東日本大震災被災者支援チャリティコンサートご報告 5 |
| ◆ 平成 23 年度助成事業のご案内 ----- 4 | ◆ 16 年目のひとり言 ----- 6 |

特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

平成23年度定時総会報告

5月27日(金)18:00より当基金事務所にて平成23年度定時総会を開催し、①平成22年度事業報告並びに決算報告、②平成23年度事業計画並びに予算計画について、出席正会員数25名(委任状16名を含む、正会員総数42名)で審議し承認されました。概要は以下のとおりです。

① 平成22年度事業報告並びに決算報告

- 平成22年度は延べ22の個人又は団体より、総額¥2,111,778の寄付・募金を託して頂きました。またイベント募金として、こうべあいウォークを協働で実施しました。皆様の暖かいお志に心より感謝申し上げます。
- 平成22年度の助成事業では、助成事業の方針として「次代の市民活動の担い手育成を重視すること」と明記しました。そして、8団体(一般枠のみ)に総額¥3,046,000の助成金を交付しました。
- 10周年記念事業の一環として、「これからの日本の市民社会に求められる寄附の社会的意義について」と題して、新野幸次郎氏講演会を実施しました。また、初めての講座事業として、NPO法人パブリックリソースセンターとパナソニック(株)のご協力を頂いて、「NPOマネジメント支援コンサルタント養成入門講座(西日本地区版)」を開催しました。

◆平成22年度収支決算(概要)

＜経常収支の部＞	
【経常収入】	3,990,300
事業収入	975,000
会費収入	552,880
寄付金・募金収入	2,111,778
その他の収入	350,642
【経常支出】	7,070,472
事業費	3,222,153
管理費	3,848,319
経常収支差額	▲3,080,172
前期繰越収支差額	14,427,217
次期繰越収支差額	11,347,045
＜正味財産増減の部＞	
【正味財産増加の部】	3,332
【正味財産減少の部】	3,160,172
当期正味財産増加額	▲3,156,840
前期繰越正味財産額	39,651,194
当期正味財産合計	36,494,354

※なお、詳細な事業報告及び決算報告は当基金のホームページの下記URLに掲載しています。

http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/about/plan_report.html

② 平成23年度事業計画並びに予算計画

- 助成事業は総額300万円で、従来からの一般枠に加え、対象を「東日本大震災で被災した人々を支援するボランティア活動」とした特定枠を設定する予定です。
- そのためのファンドレイジングを目的として、7月16日に「東日本大震災被災者支援／日本を元気に！チャリティコンサート」を、神戸新聞社等と協働で開催します。

◆平成23年度基本方針

一昨年政権交代が実現してから「新しい公共」が唱えられました。寄附についても、その基盤づくりや税制の見直しの議論が始められました。特に、市民公益活動への寄附に対して“税額控除制度”の導入が検討されていて、これによって日本でもっと寄附されやすい環境になるのでは、と期待されています。当基金でもこの動向を受けて、今年の1月に設立10周年記念事業の一環として、顧問を務めて頂いている新野幸次郎氏に、日米の寄附と税制の考え方の違いについて説明頂いたうえで、これからの日本の市民社会に求められる寄附の社会的意義についてご講演を頂きました。

そして、3月11日に発生した東日本大震災では、被災した人々を助けたい、何か役立つことがしたいという多くの人々の想いが、国内外を問わず多額の義援金・支援金というかたちで表現されています。しかしながら、このような寄附という行為への関心が高まっている中で、そのことを一時的な現象で終わらせることなく、市民の社会参加を促し、社会的な課題解決や新しい価値の創造に貢献できるような恒常的な寄附文化を根付かせることに、課題があると思われま

さて昨年度の実業計画では、2009年度に設置した「検証ビジョン検討委員会」での検証結果やその後の理事会等での協議を踏まえて、以下の点に重点を置いて活動を実施致しました。

- (1) 支援者(賛助会員、応援団、サポーター)拡大や市民活動の基盤強化に資するための戦略的なネットワークを築いていくこと
- (2) 小規模でかつ気楽な形式で連続的なイベント募金等、多様な寄付機会を開拓・企画・提供すること
- (3) 次代の市民活動の担い手育成を重視していくこと

この1年間の活動を振り返って、助成事業の方針の中で「次代の市民活動の担い手育成を重視すること」が明記され、申請書の中でも各団体の次世代育成についての考え方を記載するように求め、審査・選考にあたってその内容を重視することを通じて、当基金の助成事業の特徴を明確

にしてきました。また、青少年のフィランソロピー意識醸成のための支援活動にも取り組み始めました。それから、市民活動の基盤強化に資するためのものとしては、「NPO マネジメント支援コンサルタント養成入門講座」の実施やアドバイザー派遣事業への参画等を通じて、少しずつその歩みを始めていると言えるでしょう。

一方で、支援者拡大のためのネットワーク構築や多様な寄附機会の開拓・企画・提供については、ほとんど手つかずで積み残していると言わざるを得ません。また、認定NPO 法人格制度についての改正が見込まれている中で、当基金としても寄附を受け入れやすい環境を整えるために、その取得について検討や準備を始めなければならないでしょう。そして何よりも、当基金の活動の理念を広く伝えていくこと、そのための情報開示と説明責任を果たし広く共感を得ていくこと、そしてそれらを支える組織基盤の整備を図ることがますます求められてくるでしょう。

そこで、今年度の事業計画では、以下の3つの重点項目を置くことにいたします。

- (1) 寄附文化の醸成や市民活動の基盤強化に資するためのネットワークを築いていくこと。支援者の拡大やイベント募金など、多様な寄附機会を開拓・企画・提供すること。
- (2) 助成事業など様々な活動を通じて、次代の市民活動の担い手育成を重視していくこと。
- (3) 認定NPO 法人格取得に向けての検討・準備を進めることなどを通じて、当基金の組織基盤や情報発信力の強化を図ること。

これらの重点項目を踏まえて、今年度の助成事業では従来からの一般枠を継続するとともに、東日本大震災の被災者を支援するためのチャリティコンサートを7月に実施し、その収益金による指定寄付に基づいて被災した人々を支援するボランティア活動へ助成する特定枠を設置することとします。合わせて、「検証ビジョン検討委員会」で課題として提起されたネットワーク力をつけていく

とに取り組むことを通じて、恒常的な寄附の通路としてのコミュニティファンドの役割を果たし、「新しい市民社会」の確立に向けての道筋をつけていきたい、と考えています。

◆平成23年度事業計画(概要)

- 1 助成事業
 - ア) 本体助成事業
 - イ) はあ〜とふるふぁんど支援事業(=受託事業)
- 2 社会貢献活動促進事業
 - ア) 青少年フィランソロピー意識醸成支援
- 3 寄付・募金活動
 - ア) 直接寄付
 - イ) イベント募金(こうべあいウォーク、東日本大震災被災者支援チャリティコンサート等)
 - ウ) 職域募金(あじさい基金)
 - エ) 協働企画寄付システム(古着リサイクル寄付等)
 - オ) ネット募金導入
- 4 啓発・講座事業
 - ア) 講演会
 - イ) NPOマネジメント支援コンサルタント養成入門講座
- 5 運営管理業務
 - ア) 広報・情報発信(ホームページ、ニュースレター等)
 - イ) ネットワーク活動・スタッフ研修等
 - ウ) 文書整備等→認定NPO 法人格取得準備
 - エ) 総会・理事会・四役運営会議

◆平成23年度収支予算(概要)

【経常収入】		7,040,000
会費収入	1,250,000	
事業収入	990,000	
寄付金・募金収入	4,500,000	
その他の収入	300,000	
【経常支出】		7,040,000
事業費	4,210,000	
管理費等	2,830,000	
経常収支差額		0

平成23年度 はあ〜とふるふぁんど支援事業結果報告

平成23年1月17日～3月18日に申請受付しました「はあ〜とふるふぁんど」支援事業に今年も164団体ものご応募を頂き、誠にありがとうございました。「はあ〜とふるふぁんど委員会」による厳正なる審査の結果、下記の47団体に支援金を交付することになり、6月17日にクラウンプラザホテルにて贈呈式を行いました。

【地域振興サポート部門】

淡路島テレビジョン、淡路島・南海島サッカー交流実行委員会、(特活)新開地まちづくりエヌピーオー、空き缶でもうけてもええ会、(特活)音づくり人づくり街づくり、よさこい甲子園実行委員会、多可町住民劇団結成公演実行委員会、丹波の森-文化のまちづくり実行委員会、市川町商工会、神河町商工会、いちば太鼓、(特活)まちかど、三木さんさんまつり実行委員会、(財)神戸新聞文化財団、加西商工会議所青年部、東浦地域活性化実行委員会、六甲山自然案内人の会、(特活)コムサロン21、すきっぷ21-お話とコンサート実行委員会、甲祿子たから歌舞伎育成会、六間道四丁目商店会、高砂商業研究会、(特活)三田武庫が丘グリーンクラブ、昼食交流会調理ボランティアさくらんぼ、夢野北夏祭り子どもフェスティバル実行委員会

【ボランティアあしすと部門】

(特活)兵庫県子ども文化振興協会、(特活)アミひめじ、千種川ネットワーク、ひょうご福祉ネットワーク、医療通訳研究会(MEDINT)、(特活)三田市手をつなぐ育成会、デモクラティックスクールまっくろくろすけ、芦屋市特別支援教育研究協議会、(特活)つみっくらぶ、「神戸在日コリアン生活文化資料館」(仮称)設立準備委員会、(特活)多言語センターFACIL、東浦朗読ボランティアグループ「ひとみの会」、八幡こども見守り隊、(特活)おしゃれ de げんきに訪問ヘアカットサービス、親と子をサポートするLD親の会ハートtoハート、(特活)夢前川を美しくする会、夢一座、もちの木、朗読ボランティアグループおはなしKOBÉ、小野さつき盆栽会、(特活)愛ランド

平成23年度しみん基金こうべ・助成事業のご案内

しみん基金こうべの助成事業が今年も始まりました。地域の中で様々な障壁に立ち向かいながらも、社会的課題の解決に自律的に取り組んでいこうとされる市民活動の芽生えを、市民自らの手でお互いに支えあい大切に育てていこうという「草の根」支援が当基金の精神です。

これまでに、延べ124団体に累計4,500万円以上の助成金を交付してきました。この財源は、市民一人ひとりからの暖かいお志によるもので、助成先選考にあたっては市民目線での審査を公開の場で実施してきました。

今年も、「次代の市民活動の担い手育成を重視する」という年度基本方針のもと、総額300万円の助成金交付を予定しています。また、従来からの分野を限定しない一般枠とともに、東日本大震災の被災者を支援するためのチャリティコンサートを7月16日に実施し、その収益金による指定寄付に基づいて、被災した人々を支援するボランティア活動へ助成する特定枠を設置します。合わせて、申請書を作成されるにあたっては、個別相談会(要予約)も実施しています。

応募要項の概要は以下の通りですが、詳細は応募要項(「助成のしおり」)がございますので、ご連絡頂ければご送付します。また、当基金のホームページからもダウンロードできるようにしていますのでご活用下さい。応募要項をご熟読いただいた上で、ご応募いただきますようよろしくお願い申し上げます。

◆概要

- ①助成額:1団体あたり事業費総額の4分の3以内かつ上限50万円。
- ②選考方法:原則として、書類審査・ヒアリング調査の上、公開審査会でのプレゼンテーションにより決定します。
- ③助成対象:神戸市及びその周辺地域に住所を有する非営利団体(法人格の有無は問いません)
- ④助成枠:ア)一般枠:活動分野に限定はありません。
イ)特定枠:東日本大震災で被災した人々を支援するボランティア活動に限定します。
- ⑤優先事項:選考にあたっては、市民社会の確立・存続にふさわしい草の根性、開拓性・先駆性、団体としての継続性、地域との連携・協働を図るものを、優先します。

◆スケジュール

- 平成23年7月19日～8月26日:個別相談会(原則火・木・金)
7月19日～8月31日:応募申請受付期間
9月中旬:書類審査
9月下旬～10月上旬:ヒアリング調査
10月31日:公開審査会
11月上旬:覚書締結・助成金交付
- *
- 平成23年10月1日～平成24年9月30日
:助成事業実施期間・中間ヒアリング
- 平成24年10月末日:最終報告書提出
平成24年12月頃:助成事業成果報告会

しみん基金・KOBÉの活動報告(2011年4月～7月)

【イベント・講演・研究会他】

- 4月4日 神戸を元気に!チャリティコンサート実行委員会
4月11日 はあ〜とふるふぁんど委員会・1次審査
4月22日 市民ファンド連絡会@東京
4月27日 はあ〜とふるふぁんど委員会・最終審査
5月24日 CPRD連携事業打合せ @東京
6月5日 「新しい公共」緊急意見交換会〜どうする!被災地の未来 @神戸市総合福祉センター 主催:(特活)市民活動センター神戸、(社福)大阪ボランティア協会
6月5日 地域創造基金みやぎ設立記念フォーラム @仙台 主催:(特活)せんだい・みやぎ NPO センター、黒田:パネル登壇
6月10日 チャリティコンサート実務者 MTG
6月15日 神戸市アドバイザー派遣事業 MTG
6月17日 はあ〜とふるふぁんど支援金贈呈式 @クラウンプラザ神戸
6月20日 講座事業:受講者募集(～7月19日)
6月30日 市民ファンド推進連絡会設立記念フォーラム「市民ファンドの設立の方法と課題」@東京 主催:市民ファンド推進連絡会、江口:分科会登壇

- 7月4日 チャリティコンサート実務者 MTG
7月7日 (公財)神戸文化支援基金設立記念パーティー @北野ガーデン
7月16日 東日本大震災被災者支援/日本を元気に!チャリティコンサート @松方ホール 主催:神戸を元気に!チャリティコンサート実行委員会 助成:日本財団(詳しくはP5参照)
7月19日 助成事業:申請受付開始(～8月31日)
7月22日 講座事業:書類審査
- #### 【会議等】
- 4月27日 四役運営会議
平成23年度事業計画・予算計画(案)、平成22年度事業報告書(案)について協議
5月9日 会計監査(佐藤・森田監事)
5月10日 平成23年度第1回理事会
平成23年度定時総会に付議する事項、審査員選任について審議
5月27日 平成23年度定時総会(詳しくはP2-3参照)
7月20日 四役運営会議
講演会事業・事務局人員・古着リサイクル寄付チラシなどについて協議



～ 東日本大震災被災者支援／日本を元気に！ チャリティコンサート ～

日本センチュリー交響楽団 & 田部京子さんのベートーベン ご報告と御礼



7月16日(土)16:00から、神戸新聞松方ホールにて、各主催団体のご協力と日本財団からの助成を得まして、「東日本大震災被災者支援／日本を元気に！チャリティコンサート」を開催いたしました。

最初に、ヨーロッパでのコンクールで多数の受賞歴のあるピアニスト・田部京子さんと現田茂夫氏指揮の日本センチュリー交響楽団の共演で、ベートーベンの「ピアノ協奏曲第4番ト長調作品58」が演奏されました。休憩をはさんで、こんどは現田茂夫氏指揮の日本センチュリー交響楽団によって、同じくベートーベンの「交響曲第7番イ長調作品92」が演奏され、500人ほどで埋まった客席から演奏後も拍手が鳴りやまず、アンコール曲も披露されました。



神戸新聞社提供

どちらの曲も抒情的でもあり、力強い推進力を感じさせる曲で、東日本大震災の被災地からは遠く離れた場所でありながら、阪神大震災以来の復興のプロセスを振り返りつつ、このたびの被災地への支援の気持ちを深めるよきひと時を過ごすことができました。

今回のコンサートによる収益金は、今年度の助成事業の中で、主に「東日本大震災で被災された方々への支援のためのボランティア活動」への特定枠を設定し、被災された方々へのボランティア活動を行う団体への助成金として活用いたします。(P4参照)

最後に、この度のコンサート開催にあたりましては、実行委員会を構成しました各団体には大変お世話になり、誠にありがとうございました。合わせて、開催にあたりまして、広報などにご協力頂きました皆様方にも感謝いたします。そして、何よりも当日ご参会頂きました皆様方には、厚く御礼申し上げます。

今後皆様方から託された想いが、どのような形で生かされていくのかをお伝えしていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

*

◆主催：神戸を元気に！チャリティコンサート実行委員会
(神戸新聞社、神戸新聞文化財団、公益財団法人日本センチュリー交響楽団、(特活)しみん基金KOBÉ)

◆助成：日本財団

古着リサイクル寄付のお問合せ＆ご協力方法

あなたの古着がみんなのくらしを支えます！

■取扱可能なもの

洋服、着物、靴、バッグ、アクセサリなど

- ※ 性別や対象年齢、シーズンなどは問いません。普段着でもOKです。
- ※ むいぐるみなども一部、取扱可能です。事前にご相談ください。
- ※ 汚れたものや破れているものは取扱できません。あくまでも再販売が可能なものに限りです。
- ※ 他にも取り扱い可能なものがあります。詳しくはお問い合わせください。

■ご提供の方法

1. お洗濯やクリーニングなどは、必ず済ませてください。
 2. 消えないしみや汚れ、破れのあるものは除いてください。
 3. 直接お店にご持参いただくか、宅配便にてお店へお送りください。
 4. 送付の際、「しみん基金 KOBÉ へのリサイクル寄付」と明記してください。
- ※ 恐れ入りますが、送料は、送り主様にてご負担ください。

◆提携店舗： オレンジスリフティ六甲店 URL: <http://kobe-haberdashery.com/othriftyrokko/index.html>
〒657-0027 神戸市灘区永手町3-1-208 TEL 078-858-7090 e-mail: othriftyrokko@aol.com



16年目のひとり言 ～魂の叫び～



前号のコラムに「被災地支援のボランティア活動やチャリティー活動に、16年前の阪神・淡路大震災の教訓が十分に活かされている」と書いた。いわゆる民間レベルの市民活動的な動きにおいてはの話である。悲しいかな政府や行政レベルの対応に16年前の教訓が活かされているかと言えば、程遠いものが感じられる。震災から5ヶ月が経とうとしている今、被災者の方々にとって、これからどのように生活をしていくかが、現実の問題として重くのしかかる。災害によって失った家、仕事、コミュニティは取り戻すことが出来るのか？そして今回の場合、住み慣れた土地に戻る事が出来るのか？という問題にも直面している。

被災者の方々に今、必要なものは、こういった様々な問題に対する、将来に向けた希望ではないだろうか。僅かな光であっても希望を持つことが出来れば、人は前に向かって進んで行ける。既に希望を持って自ら動き始めている被災者の方もおられるようだが、それはごく僅かな方に限られる。希望の光を灯すのは、やはり国であり行政だ。政府が復興に対する大きな指針を示し、施策を講じ、法整備を行い、地方行政がそれに伴って動き出す構図が作れなければ、いつまで経っても光は見えて来ない。

皆さんも考えて欲しい、半年間も光の無い生活を強いられたとしたら、どうであろう。被災地では、自殺者が相次いでいると聞く。また、ここに来て企業の民事再生手続きが増加しているとも聞いている。直近では、仮設住宅での孤独死がついに起こってしまったとも聞いた。阪神・淡路のような都市型災害と今回の震災では大きな違いがあり、全てに教訓が活かされる訳ではない。しかし、僅かでも希望の光さえあれば、失わなくてもよい命が多くあるはずだ。16年前に失われた6千余に及ぶ魂の叫びが聞こえる。

しみん基金・KOBÉ 専務理事 瀬戸口仁三郎

会員数とご寄付のご報告

- ◆正会員 個人 38名 団体 4名
 - ◆賛助会員 個人 51名 団体 14名
- (2011年7月末現在)

◆寄付・募金合計金額 41,320円

◆寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

オレンジスリフティ、中島 秀男、被災地NGO協働センター
(2011年4月～7月)

皆様方の篤いお志に心より御礼申し上げます。

★次号の予告(2011年11月頃発行予定)

・平成23年度しみん基金KOBÉ助成事業の結果報告など

「しみん基金・KOBÉ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円

団体会員 年間 10,000円

お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892
みなと銀行 本店営業部 普通 1597921
近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854
郵便振替 00990-5-157334
口座名義 「しみん基金・こうべ」



しみん基金・KOBÉ の最新情報は「事務局ブログ」で随時更新！

このニュースレターは、約3～4か月に1回のペースで発行していますので、少し情報が古くなってしまいます。そこで、昨年2月より当基金の最新情報は、随時「事務局ブログ」で更新するようにしています。当基金ホームページのトップ画面にある事務局ブログ[一覧]をクリックすると全記事がご覧頂けます。時々覗いて頂ければ幸いです。よろしく願い申し上げます。

<http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/blog/>